

## 第3部会のまとめ(未定稿)

目標	基本的な視点	政策の基本的な方向	戦略的・重点的な取組の方向性
<p>地域における多様なつながりの中で、心豊かで自立心を持った「次代を担う人」を育むまち</p>	<p><b>【すべての子どもへの切れ目のない成長・学びの支援】</b></p> <p>子どもの成長・発達をライフステージに応じて切れ目なく支え、すべての子どもの健やかな育ち、学びと自立を支援するまちづくりを進める。</p> <p>すべての子育て家庭が安心して子育てができるよう、仕事と家庭(子育て)の両立を支援する環境づくりを進める。</p> <p>子どもたちの「生きる力」である「確かな学力」、「豊かな心」、「健康な心身」を育み、調和の取れた人間形成を目指した、質の高い教育を推進する。</p> <p><b>【地域の子育て力・教育力・文化力の創造とつながり】</b></p> <p>区民が、地域のもつ豊かな子育て力・教育力・文化力を、子どもたちのために生かすという考えに立ち、さらなる子育て力・教育力・文化力を地域のネットワークにより創造し、発信する。</p> <p>誰もが互いを尊重し、生涯にわたり人の成長と学びにかかわり合い・学び合い・支え合う中で喜びを感じ、その成果を循環・継承していく社会を構築する。</p>	<p><b>(1) すべての子どもへの良質な成育環境を整え、地域全体で子どもの育ちと子育て家庭を応援するまちをつくる</b></p> <p>すべての子育て家庭が、子育ての楽しさや喜びを実感しながら、孤立せずに安心して子育てができるよう、悩みを相談したり話し合える場を設けるなど、地域で子育て・子育てを支え合う仕組みづくりを進める。</p> <p>幼保一体化を含む保育施策や放課後児童対策の拡充を図るなど、働きながら安心して子どもを産み育てることのできる環境をつくる。</p> <p>子どもを虐待から守るとともに、特に支援を必要とする子どもや家庭に対する支援を進め、子育てセーフティネットを整備する。</p> <p>子どもが社会とのかかわりを自覚しながら健やかに成長できるよう、青少年の自立を促し社会参画を推進する。</p> <p><b>(2) 一人ひとりの子どもの成長を支える、より質の高い学校教育を推進する</b></p> <p>子どもの成長・発達段階に応じ、順序立てた学習指導を行い、「知・徳・体」の調和の取れた人間形成を目指し、基礎基本を重視した「学びの連続性を重視した教育」を推進する。</p> <p>一人ひとりの子どもの心身の成長・発達や教育ニーズに即した、きめ細かな教育を推進する。</p> <p>子どもの生きる力を培うため、世代間や異文化の交流、ボランティア活動など、さまざまな人とのかかわりを各学校の特色ある教育活動に積極的に採り入れ、コミュニケーション能力を高める取組を推進する。</p> <p>子育て・教育・文化など地域の力をもとに、地域の絆をつなぎ、子どもたちの豊かな学びを地域とともに支える学校教育を推進する。</p> <p><b>(3) 家庭・地域・学校の連携・協働を進め、子どもたちの心豊かな成長を支援する</b></p> <p>区民一人ひとりが、社会の構成員を育てる教育の当事者であるという考えのもと、地域の中での子育て力、教育力を一層高める。</p> <p>地域の人々が子どもたちとかかわりを持つことで、共に育つ喜びを感じ、その取組や成果が広まり、継続・循環していく「知の循環型社会」を構築する。</p> <p>子育て力・教育力・文化力を育み、地域コミュニティの核として機能する地域の新しい公共空間としての学校づくりを目指す。</p> <p><b>(4) 誰もが生涯にわたり、世代や性別、国を超えた様々な人々とかかわりの中で、意欲的に学び、文化・スポーツに親しみ、その学習・活動成果の社会的活用と区内外への文化発信が図れるまちをつくる。</b></p> <p>生活を営む身近な地域で、区民一人ひとりが、自己実現や身近な課題の解決に向けて学ぶとともに、区民相互に学び合い、交流し、高め合う生涯学習社会を築く。</p> <p>さまざまな社会経験を積んだ高齢者や専門技術・技能等をもつ区民など、潜在的な地域の力を発掘し、伝統の継承と新しい創造への支援のための仕組みを通して、地域で育つ子どもたちへの豊かな文化環境づくりを進める。</p> <p>人権が尊重される男女共同参画社会の実現を目指し、ワーク・ライフ・バランスに配慮した社会環境づくりを進めるとともに、人々の豊かな生活と活動の基礎となる平和な社会に向けた取組を推進する。</p> <p>グローバル社会の進展を踏まえ、共生社会を築いていくため、日本文化の理解を促進するとともに、さまざまな文化の共存を理解する。</p>	<p><b>(1) 社会環境や区民ニーズの変化に対応した地域子育て支援の充実</b></p> <p>子どもの年齢や家庭の状況に応じて必要な支援を切れ目なく受けられるよう、子どもと子育てに係る公共施設の配置基準・ネットワークの見直しを行いながら、地域における子育て支援の拠点・サービスの充実を図り、子育てにやさしい地域社会づくりを推進する。</p> <p><b>(2) 子どもの「学びの連続性」を重視し、その成長・発達をきめ細かく支える教育の推進</b></p> <p>すべての子どもの心身の成長を支え、社会を構成する一員として、自信をもって自らの人生を切り拓いていけるようにするため、学びの連続性を重視した教育を推進する。</p> <p>一人ひとりの子どもの学力・体力を高めるため、教師の力量形成を図り、基礎基本を大切にしたいきめ細かな学習指導を行うとともに、障害のある子どもの発達状況や教育ニーズに応じ、適切な教育的支援を行う。</p> <p><b>(3) 家庭・地域・学校の連携・協働のさらなる推進</b></p> <p>子どもの成長・発達過程には、家庭・地域・学校それぞれの役割と責任があり、お互いの力の連携・協働の仕組みのさらなる拡充に取り組む。</p> <p><b>(4) 生涯学習・スポーツ、文化・芸術活動の基盤・環境整備</b></p> <p>質の高い豊かな区民生活を教育・文化の側面から支えていくことが必要となるため、杉並に暮らし、集う全ての人々の学びと活動・創造・発信の場として、生涯学習・スポーツや文化・芸術活動の基盤と環境の整備を進める。</p> <p>文化に関する提言を受け、また文化にかかわる情報の収集・整理・発信などを行いながら、文化政策ビジョンを積極的に打ち出す。</p>

## 全体に共通する事項

重点政策には目標を設定し、行政と区民とが協働で、到達度をチェックするシステムを構築する。

## これまでの主な意見等の整理 < 第3部会 >

10年後のあるべき姿・目標(どんな杉並区民に育ってほしいか) キーワード例 「循環」、「つながる」、「育む」、「自立」、「発見・創造」、「受信・発信」、「地域と密着・協働」、「関わる」、「支えあう」

### 【子育て、子育て】

少子化・低成長時代は続くものと見込まれ、今後の労働条件・雇用条件と子育て家庭の生活(ワークライフバランス)を踏まえると子育て観を変える必要があり、これまでの施策の整理を行い、今後の施策を再構築することが必要である。

身近な子育て支援策は、若い世代にとって出産するかどうか左右する大きな選択肢になる。母親が孤立化しないしくみを整える必要がある。

親が地域の中で不安なく子育てできるよう、悩みを相談したり子育て家庭が相互に話し合える場は必要であり、ひととき保育や子育てサロンなどを備えた中核となるセンターが身近なところが必要である。

既存の施設を有効活用して上記のようなセンターを設置する場合、杉並の特性として「児童館」を活用することになると思うが、その場合学童クラブをどうするかが課題である。また、このセンターと保健所・保健センターとの連携が重要である。

杉並区は、保育園の待機児解消に積極的に取り組んでいるが、一方で財源という問題もあり、民間活力の活用を含めた対応を図る必要がある。また、行政コストからすると、区が保育施設を増やすより民間保育施設の保育料を助成(現金給付)する方向での対応も考える時期に来ていると思う。

区が保育の待機児解消策を講じるほど、外部からの流入が増えて切りがない。単に保育施設を増やせば良いということではなく、今後の施策展開を考えるべき。

労働条件の変化等を踏まえ、区は保護者の保育ニーズに対応してきたが、保育時間の拡大は子どもにとって良いことだとは思えない。今後は、企業など雇用側の姿勢が問われると思うので、ワークライフバランスへの理解を進める必要がある。

国は幼保一体化の推進を掲げるが、杉並の私立幼稚園には広がっていない。良い取組だと思うので、区独自の推進策が必要だと思う。

小学校入学前の保育園・幼稚園・その他の子育て施設において、成長過程に即した就学前教育が大切である。

主に子育てするのは母親、ということで部会での議論がなされてきたが、これから共働き世帯は増加する。今後の10年を考えると、夫婦で子育てすることを前提に議論すべきである。

多様な生活形態に対応した様々な保育施策を用意することが必要である。

### すべての子どもへの切れ目のない成長・学びの支援

### 【学齢期以降】

「杉並で教育を受けると将来はこんな人に育つ」というような目標を設定して、皆で共有できると良い。

子どもの基礎学力・生きる力を培うためには、人間関係能力やコミュニケーション能力を高める取組が必要であり、学校の中に、世代間の交流とか異文化の交流、ボランティア活動など、様々な人との関わりを積極的に取り入れていくことが求められる。

子どもたちに、生きる力・考える力・行動力を備わせるためには、子どもに豊かな経験をさせるとともに、親自身の教育も必要である。

生きる力・考える力を培う取組として、現在各学校で実践されている「特色ある教育活動」を一層活用すべきである。

教師の役目はとても重要であり、教員の養成や力量の形成に引き続き取り組む必要がある。

特色ある教育という中で、外国語活動や国際理解教育などを区が教育の目玉として力を入れて取り組んではどうか。

小中の連携はとても重要で小中一貫教育は今後も必要な取組である。さらに、高等教育とのつながりも視点に入れて取り組む必要がある。

発達障害や障害と認定されないいわゆるグレーゾーンの子供については、早期対応が重要である。

無気力な子どもやニートにならないための取組として、自分の価値観を高める教育が大事だと思う。

家庭や家族が従来と大きく変化している中で、自立することとともに、子育てすることの必要性を学ぶことが求められていると思うので、中学校教育における「子育て」の教育の位置付けをしっかりとすべきである。

体験学習・職業体験の機会を増やし、将来に向けて子どもの力を養うことが重要である。

### 【地域の力】

### 地域の子育て力・教育力・文化力の創造とつながり

高齢者や専門的な技術・技能を持つ区民など、地域に多数存在する人材や企業を発掘し、循環・継承させるシステムが必要だと思う。

杉並の各地域には潜在的な様々なポテンシャルがある。今後は、新しいことを始めるだけでなく、眠っている地域の力の発掘・発見、育成・創造、継承・発信する観点が重要。

地域の人々が子どもたちとかかわりをもつことで、喜びを感じるのが大事。それが、取組の継続性や広がりにつながると思う(知の循環型社会の構築)。

基本構想における文化の位置付けは、高邁かつ抽象的なものではなく、より具体的な施策や道筋を踏まえたきめ細かな配慮(地域性・世代・領域等の場面での違い)が必要。

これからの公共と文化の関係は、現場で地域と行政と専門家が協働していくような体制をつくらないといけない。

基本構想の中で、「杉並の子ども文化を開かせよう」とか「子どもスポーツを開かせよう」というような重点的な視点というのを持つべきだと思う。

共生社会の実現に向けて、多文化理解のための日本文化の理解が必要であり、また、コミュニケーションという側面からの日本語と外国語教育が大事だと思う。

今後、小・中学校の施設更新にあたっては、子どもの視点だけでなく、広く区民が利用しやすい施設として有効活用できるように整備することを検討すべき。

今後のスポーツ振興を世代間交流等を絡めながら進めることで、健康増進という側面のほか、青少年の健全育成(マナーを含む価値観を高め・育む)が図られるのではないかと(タテヨコ社会でない斜めの関係の体験が必要)。

生きる力・考える力・行動する力、社会力や人と共存していくことなど、子どもたちが自然に学ぶ場を設ける必要があり、例えば「放課後子ども教室」は有効な取組の一つである。

子育て経験のある元気な高齢者はボランティア意欲もあり、身近な地域にいる大きな子を育てた現役世代が頼りになるので、こういう人たちを地域の子育て力に活かす視点が大事である。そうした活動を通じて、高齢者が子育て中の若い人たちから学ぶこともある。

地域の中で必要とする人に、子育てに関する学習や情報を得られることができるとともに、顔を見合わせて相談できる身近な場があることが大事である。今後の子育て支援は、預かり施設を中心とした施策よりも、子育て・子育てをきっかけにして新たなネットワークを築き、その人材を育て情報を提供していくことが大事だと思う。

今後は、従来の地域や「民」のイメージから脱却し、都市部における地域とは何かを問い直し新たな関係を築いていかなければ、新たな課題への対応が図れないのではないかと。

杉並らしさを出して、地域性・地域の資源(人材)を活用していくことが必要だと思う。

児童・青少年への文化環境づくりとして、新しい施設・事業・支援助成のしくみを作る必要はなく、現在あるものを横につなげていけばよいと思う。